

今、自分にできる最大のことを

私は放射線科入局1年目の冬に2か月間、救命救急センターと集中治療室で勤務させて頂きました。センターでは、救急専門の複数の医師と一緒に患者を診ていて、常に直ぐ誰かに相談できる体制で研修できました。また、後方にICUがあるので、救急で受け入れた後、その患者さんにどのような治療が開始されるのか、患者さんがどのように回復されるのかがわかりました。

救命センターでは、私を、放射線科所属の医師として「ご自身の持っているお力を活かしてください」という姿勢で迎えてくれました。そのことにより、「ここで自分にできることを最大限やろう」というモチベーションがわき、救命センターでは毎日、できる限り画像に目を通して、わからないこと確認したいことは放射線科の上司にも確かめに行き、朝、夕の救命センターのカンファレンスに臨みました。シフトは一人ではなく必ず他の医師がいるため、体力的にも問題なく2か月過ごせました。放射線科の医師は、救命コールがあれば日中、夜間でも駆けつけます。研修のおかげでセンターの医師とお互いに顔見知りになり、活動しやすくなりました。

自分の大切な家族が暮らしているこの地で救命センターが、現在どのような患者を受け入れ対象として設定しているか、どのような判断で転院するのかを知り、安心しました。今は、新たな課題と向き合い、自分自身の成長を楽しみながら頑張っています。最重症例を専門の医師、複数のバックグラウンドを持つ医師と一緒に診る、こんな貴重な環境は他にないと思います。何科の医師でも、何年目であっても、自分がこのチームの力になり得るという実感は、これからの自分を支える経験になると強く思います。 放射線診断科 宮川 真依



医師としてさらに成長するために

後期研修のはじめに、救命救急センターに入る時は、不安もありました。上司から「今後、放射線科医師として重要な経験になる」と伺い、また同じ研修をした先輩方の「心配いらないよ」という言葉に背中を押されて決心しました。入ってみるとわかりますが、救命救急センターは救急専門の先生と、あらゆる専門分野の先生方との連携があり、常に先生方に指導を受けながら研修することができるため、安心しました。先生方は、自分なりに精いっぱい頑張ろうとする私を、あたたかくサポートしてくれました。

○救命救急センターと集中治療室で、みなさんの人柄に触れた……「まっている人を救いたい」。技術や知識だけではなく、センターのみなさんのお人柄に触れることによって、今井先生をはじめ救急の先生方が、今、何をやっていて、どこを目指そうとしているか深く理解することができました。

○丁寧な指導……センターは研修される皆さんのお力も含めた幅広い知識と技術が集められて、ここからまた、みなさんを通じて発信されていく高度な医療技術の中継地点です。放射線科の私も実感しました。先生方は、どの専門分野を目指す医師にも、救急ならではの知識と技術、各専門分野の知識と技術を丁寧に指導をされています。

○センターを通じて出会い、新たなつながりが生まれる……同時期に研修した他科の先生や、そこで出会った皆さんと、信頼関係が生まれました。今でも、その関係が継続しています。新たなつながりが得られるのも魅力のひとつです。共に医療を支えていく先生方とここで知り合えたからこそ、離れた場所においても解り合え、協力関係を築くことが出来ると思います。

救命救急センターは、各自が「自分にやれることを全てやる！」と同時に、「互いに隣にいる人、チームにいる人の力を最大限に活用する意識」が、とても高いチームです。互いにリスペクトされている、意欲的なメンバーの中に身を置いていると、ためらわず伝え合い、もっとできることがないか、自分自身に問うようになります。チーム全体の力が作用して、患者さんの回復する力を引き出す過程を目の当たりにしました。

学生の頃の実習で頭をうつことや、初期研修で社会人としての責任の重さを知り、躓くこともあるでしょう。そんな中で実感したものこそ、後で必ず役に立ちます。属する集団の責任の一端を負い、医師としてさらに成長するために、救命救急センターでの後期・短期研修をお勧めします。私のように短期間所属するメンバーもたくさんいます。常に新しい風が入り続けるチームです。あなたもチームに新しい風を！ 放射線診断科 栗田 仁衣



当救命救急センターは

全診療科が関与する中央診療部門として、救急専門医取得済みのスタッフが24時間体制で救急、集中治療を運営しています。日本救急医学会指導医、専門医、日本集中治療学会専門医、日本循環器学会専門医、脳神経外科学会専門医、外科学会専門医、麻酔科学会専門医が常駐しており、集学的医療を実践しています。

短期プログラム学習目標

•3次救命センターでの高度医療を体験

PCPS、人工呼吸器管理 (APRV,IPV,HFOV) 気管切開術、血液浄化療法、蘇生後低体温療法

•基礎的な勉強会

抄読会、学会発表(研修期間による) ICU/ERで必要となる基礎的な勉強会 FCCS[®]、JATEC[®]など救急、集中治療医学を学ぶ講習会への参加

1) <http://www.jseptic.com/fccs/index.html> 2) http://www.jtcr-jatec.org/index_jatec.html

短期プログラム到達目標

- 重症患者の全身管理方法を習得する。
- 科学的根拠に基づく医療を実践できる。
- 医学文献検索やプレゼンテーションが出来る。
- 気道確保困難症例に対応できる
- 重症頭部外傷、神経疾患に対応できる。
- 急性循環不全に対応できる。
- 急性呼吸不全に対応できる。
- 急性血液浄化療法を実践できる
- 敗血症のマネージメントを実践できる。
- 中毒疾患、重症外傷に対応できる。

対象

県内の後期研修医9年目まで。

集中治療を研修したい方であればどなたでも研修できます。科を問いません。

期間

3ヶ月から1年 ペースはご相談に応じます。

処遇

身分、給与などご所属の病院とご相談させていただきます。

問い合わせ先

三重大学医学部附属病院救命救急センター

Tel: 059-231-5329

E-mail: kyukyu2@clin.medic.mie-u.ac.jp

もしくは直接センター長 今井寛まで